

学校給食に関する請願（その 1）

令和 3 年 8 月 30 日

青森市議会議長 長谷川 章 悦 様

住所 青森市本町一丁目 6 番 10 号
青森雲谷プロジェクト

氏名 代表 佐々木 豊 志

紹介議員 万 徳 なお子

（請願の趣旨）

子どもたちは、これからの社会を担う主人公であり、地域の財産である。その心と身体の健やかな成長のためには「安全な食べ物」が欠かせない。「学校給食」は 3 食のうち大切な 1 食であり、すべての子どもたちにとって、成長や食育のためにとっても重要なものである。しかし、日本は OECD に加盟する 37 か国の中で最も農薬使用量が多く、有機リン系、ネオニコチノイド系、グリホサートなど多くの農薬は、発がん性、発達障害を含め脳神経系への影響、そして次世代への影響があることが研究で明らかになっている。疑わしいものは使わない「予防原則」を基本として、EU など世界各国ではこれらの農薬の使用禁止や規制強化に動いている。

それに対して、日本は基準値を大幅に緩和しており、例えば、外国産小麦を使った学校給食のパンからはグリホサートが検出されている。このような状況の中で、残留農薬の影響を特に受けやすい成長期の子どもたちは、可能な限り摂取しないことが重要である。青森市で提供される学校給食で、農薬を使わずに栽培されたお米や野菜を使い、小麦を外国産から国産（県産）小麦に切り替えることで、農薬の影響を低減させることができる。

現在、全国の地方自治体で学校給食をオーガニック（有機無農薬農産物）給食に切り替える動きが加速している。

ついては、以下のことを請願する。

（請願事項）

学校給食の米・野菜は、「有機無農薬農産物」（またはそれに準ずるもの）に段階的に切り替えること。また、それによって給食費が上がる場合は、その差額を青森市が負担すること。

学校給食に関する請願（その 2）

令和 3 年 8 月 30 日

青森市議会議長 長谷川 章 悦 様

住所 青森市本町一丁目 6 番 10 号
青森雲谷プロジェクト

氏名 代表 佐々木 豊 志

紹介議員 万 徳 なお子

（請願の趣旨）

子どもたちは、これからの社会を担う主人公であり、地域の財産である。その心と身体の健やかな成長のためには「安全な食べ物」が欠かせない。「学校給食」は 3 食のうちの大切な 1 食であり、すべての子どもたちにとって、成長や食育のためにとっても重要なものである。しかし、日本は OECD に加盟する 37 か国の中で最も農薬使用量が多く、有機リン系、ネオニコチノイド系、グリホサートなど多くの農薬は、発がん性、発達障害を含め脳神経系への影響、そして次世代への影響があることが研究で明らかになっている。疑わしいものは使わない「予防原則」を基本として、EU など世界各国ではこれらの農薬の使用禁止や規制強化に動いている。

それに対して、日本は基準値を大幅に緩和しており、例えば、外国産小麦を使った学校給食のパンからはグリホサートが検出されている。このような状況の中で、残留農薬の影響を特に受けやすい成長期の子どもたちは、可能な限り摂取しないことが重要である。青森市で提供される学校給食で、農薬を使わずに栽培されたお米や野菜を使い、小麦を外国産から国産（県産）小麦に切り替えることで、農薬の影響を低減させることができる。

現在、全国の地方自治体で学校給食をオーガニック（有機無農薬農産物）給食に切り替える動きが加速している。

ついては、以下のことを請願する。

（請願事項）

小麦は国産を使用すること。また、それによって給食費が上がる場合は、その差額を青森市が負担すること。

学校給食に関する請願（その 3）

令和 3 年 8 月 30 日

青森市議会議長 長谷川 章 悦 様

住所 青森市本町一丁目 6 番 10 号
青森雲谷プロジェクト

氏名 代表 佐々木 豊 志

紹介議員 万 徳 なお子

（請願の趣旨）

子どもたちは、これからの社会を担う主人公であり、地域の財産である。その心と身体の健やかな成長のためには「安全な食べ物」が欠かせない。「学校給食」は 3 食のうち大切な 1 食であり、すべての子どもたちにとって、成長や食育のためにとっても重要なものである。しかし、日本は OECD に加盟する 37 か国の中で最も農薬使用量が多く、有機リン系、ネオニコチノイド系、グリホサートなど多くの農薬は、発がん性、発達障害を含め脳神経系への影響、そして次世代への影響があることが研究で明らかになっている。疑わしいものは使わない「予防原則」を基本として、EU など世界各国ではこれらの農薬の使用禁止や規制強化に動いている。

それに対して、日本は基準値を大幅に緩和しており、例えば、外国産小麦を使った学校給食のパンからはグリホサートが検出されている。このような状況の中で、残留農薬の影響を特に受けやすい成長期の子どもたちは、可能な限り摂取しないことが重要である。青森市で提供される学校給食で、農薬を使わずに栽培されたお米や野菜を使い、小麦を外国産から国産（県産）小麦に切り替えることで、農薬の影響を低減させることができる。

現在、全国の地方自治体で学校給食をオーガニック（有機無農薬農産物）給食に切り替える動きが加速している。

ついては、以下のことを請願する。

（請願事項）

給食は、自校方式の調理場を基本として、今後整備を進め、各校 1 人の栄養士を配置すること。

学校給食に関する請願（その4）

令和3年8月30日

青森市議会議長 長谷川 章 悦 様

住所 青森市本町一丁目6番10号
青森雲谷プロジェクト

氏名 代表 佐々木 豊 志

紹介議員 万 徳 なお子

（請願の趣旨）

子どもたちは、これからの社会を担う主人公であり、地域の財産である。その心と身体の健やかな成長のためには「安全な食べ物」が欠かせない。「学校給食」は3食のうちの大切な1食であり、すべての子どもたちにとって、成長や食育のためにとっても重要なものである。しかし、日本はOECDに加盟する37か国の中で最も農薬使用量が多く、有機リン系、ネオニコチノイド系、グリホサートなど多くの農薬は、発がん性、発達障害を含め脳神経系への影響、そして次世代への影響があることが研究で明らかになっている。疑わしいものは使わない「予防原則」を基本として、EUなど世界各国ではこれらの農薬の使用禁止や規制強化に動いている。

それに対して、日本は基準値を大幅に緩和しており、例えば、外国産小麦を使った学校給食のパンからはグリホサートが検出されている。このような状況の中で、残留農薬の影響を特に受けやすい成長期の子どもたちは、可能な限り摂取しないことが重要である。青森市で提供される学校給食で、農薬を使わずに栽培されたお米や野菜を使い、小麦を外国産から国産（県産）小麦に切り替えることで、農薬の影響を低減させることができる。

現在、全国の地方自治体で学校給食をオーガニック（有機無農薬農産物）給食に切り替える動きが加速している。

ついては、以下のことを請願する。

（請願事項）

今後、「学校給食をオーガニック給食にする」条例を制定すること。